

令和4年度 那須塩原市議会「志絆の会」 行政視察報告書



視察地 : 兵庫県姫路市
視察日 : 令和5年1月30日(月)
視察内容 : ユニークベニューHIMEJIプランについて

視察地 : 兵庫県神戸市
視察日 : 令和5年1月31日(火)
視察内容 : 神戸市の下水道(資源・エネルギー活用)の取り組みについて

視察地 : 兵庫県尼崎市
視察日 : 令和5年1月31日(火)
視察内容 : 阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画について

視察地 : 大阪府大阪市
視察日 : 令和5年2月1日(水)
視察内容 : こども本の森中之島について

【参加者 : 眞壁 俊郎 鈴木 伸彦 小島 耕一 金子 哲也】

テーマ ユニークアベニューHIMEJI プランについて
視察地 兵庫県 姫路市
視察日 令和5年1月30日(月)
報告者 鈴木伸彦



1. 姫路市の概況

姫路市は、明治22年の市制施行以来、数次にわたり周辺地域を編入して地域を拡大するとともに、戦後は昭和21年にラモート合併により新生姫路市が誕生し、商工業都市として発展してきた。

平成8年4月に中核市に移行し、平成18年4月の家島町、夢前町、香寺町及び安富町との合併で、人口53万人余りに達し、播磨地域の中核都市としてゆるぎない地位を占めている。

また、平成26年6月に本市が全国に先駆けて国に提唱し実現に至った年制度である地方中枢拠点都市(現:連携中枢都市)のモデル都市に選定され、平成27年2月には、連携、中枢都市宣言を行い、同年4月に近隣の6市8町と、そして12月には赤穂市と連携中枢都市圏形成に係る連携協約を締結し、播磨圏域全体の経済成長のけん引、高次都市機能の集積などに取り組んでる。

市域面積は534.35km²で、兵庫県南部のほぼ中央に位置し、山陽道自動車道、中国自動車道及び国道2号線をはじめとした主要国道や広域幹線道路が整備され、鉄道網はJR山陽新幹線・山陽本線・播但線・姫新線、山陽電鉄が東、西、北方面と繋がる交通の要衝となっている。一方、海上交通も家島諸島への定期航路や国内外の貨物航路など姫路市を中心としたネットワークが形成されている。

臨海部には重厚長大型企業が立地しており、企業立地の優遇制度や市内外企業の支援策も充実させ、さらに企業誘致、企業立地の推進にも努めている。

また、平成5年に、わが国初の世界文化遺産に指定された国宝姫路城やハリウッド映画のロケ地ともなった、書写山えん寺等の歴史的建造物や貴重な文化遺産

も数多く有している。平成26年には、本市生まれの戦国武将である黒田官兵衛をテーマにした大河ドラマ「軍師官兵衛」が放映された。平成27年3月には約5年半に及んだ大天守保存修理工事が完了し、姫路城がグランドオープンを迎え、平成27年度の姫路城入場者数は過去最多の2,867,051人を記録した。令和3年9月には文化コンベンションセンター「アクリエひめじ」が開館し、同年10月には第27回WHO西太平洋地域委員会が開催されるなど、本市の魅力の発信と都市の発展に大きな役割を果たしている。

さらに、同年5月には内閣府から「SDジーズ未来都市」に選定され、グローバル人材の育成やグリーン化によるSDジーズを推進している。同年3月には2050年までに二酸化炭素の実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言した。そのシンボルとして、姫路城において場内で使用する高圧電力の再生可能エネルギー100%への切り替えやライトアップのLED照明化を行う「ゼロカーボンキャッスル」の推進に取り組んでいる。

今後も、世界文化遺産・姫路城を始め、豊かな歴史文化や産業、自然環境に恵まれたふるさと姫路を舞台に、多様な人が、互いの命・暮らしをたいせつに思い、支え合って、力強く輝く。そして、播磨の交流拠点都市としての特徴を生かし、まちとまちの連携、ヒト、モノ、情報の活発な交流を通じて、世界に誇れるまちの魅力やにぎわいを想出する、持続可能で生涯安心して暮らすことができる都市を目指している。

2. ユニークアベニューHIMEJI プランとは

姫路城は、日本で現存する最大規模の城郭建築であり、巧妙な縄張りや多様な石垣、連立する大天守、小天守、渡櫓など、日本の城の魅力が凝縮されています。

その美的完成度が、わが国の木造建築の最高の位置にあり、世界的にも他に類のない優れたものであることなどが評価され、1993年に日本で初めて世界遺産に登録された。本プランは、「世界遺産・姫路城」を始めとする歴史的建造物や、景観的価値のある特別な場所(ユニークアベニュー)を、コンベンションのレセプションや各種式典、展示会の会場などとしてお使いいただき、「姫路」でのMICE開催が、より魅力的で特別な価値あるものとなるよう演出していただくものである。

MICE誘致の観点から、世界遺産・姫路城をはじめ、好古園や美術館、姫路文学館、書写の里・美術工芸館などの歴史的建造物や景観的価値のある特別(ユニーク)な場所(ベニュー)において、企業や学術団体等のレセプション等が開催できるよう、民間への利用開放を実施するもの。世界遺産・姫路城を有する独自

性を最大限に活用し、本市の魅力向上と MICE の推進を図るとともに、施設の維持管理のための財源確保を目的とする。

(平成 30 年 7 月 1 日施行)
としている。

3. ユニークアベニューの使用例

- ・レセプションパーティ
- ・各種記念式典
- ・大会、学術会議、セミナー会場
- ・新製品の発表会
- ・記者会見、展示会 など

4. 対象施設と使用料

対象施設

姫路城

三の丸広場 (全面)	5,000,000 円
三の丸広場 (半面)	2,500,000 円
三の丸西高台	500,000 円
三の丸大柱前広場	500,000 円
二の丸広場	1,500,000 円
姫路城西御屋敷庭園好古園	500,000 円
姫路市立美術館 (前庭)	500,000 円
姫路文学館望景亭	120,000 円
姫路市書写の里・美術工芸館	120,000 円

5. コーディネーター

株式会社 JTB 姫路支店

株式会社近畿日本ツーリスト関西 姫路支店

株式会社 コンベンションリンケージ

プランを利用するには、本市が通定したイーティネーターを通じて、申込手続きを行う。ただし、姫路市立書写の黒・美術工芸館については、コーディネーターを介さずとも利用者が直接、申込手続きを行うことができる。

〈コーディネーターの業務〉

- ・プランを利用した事業の企画及び立案に係る業務
- ・本事業を実施する利用者の誘致
- ・対象施設の予約及び使用許可申請に係る業務
- ・利用者の希望と本市側との調整 (日程、入場方法、会場設営、飲食の可否及び会場使用の注意、史跡地内の現状変更許可申請上の制約等) に係る業務
- ・会場の設営・撤収、原状回復、安全管理、施設の保護・管理、使用者の案内・指導及びサービスの提供といった使用に係る一切の業務
- ・本事業の実施に必要な手続きに係る一切の業務

- ・文化財保護の啓発

6. PR 活動について

○ 制作物

- ・ユニークベニューHIMEJI プラン
- ・HIMEJI コンペンションガイド

○ 広報媒体

- ・姫路市のホームページ
- ・(公社) 姫路観光コンペンションビューローのホームページ
- ・アクリエひめじのホームページ
- ・コーディネーターのホームページ
- ・市内コンペンション施設にパンフ設置
- ・観光施設にパンフ設置

○ 対象

- ・主催者
- ・団体事務局
- ・PCO (MICE 運営事業者)

6. ユニークベニューHIMEJI プラン利用実績

催事名: 第 31 回国際アカデミー in 姫路 フェアウェルパーティ

日 時: 2018 年 7 月 13 日 (金) 19:00~

主催者: 公益社団法人日本青年会議所

会 場: 姫路城 三の丸西高台

内容: 公益社団法人日本青年会議所のメイン事業の一つとして、世界約 80 カ国、国内 47 都道府県から 210 名の次世代のリーダー達が、約 10 日間に渡る研修や交流事業を行う「第 31 回国際アカデミー in 姫路」のフィナーレを飾るフェアウェルパーティの会場として、当プランを活用したもの。

参加者数: 約 800 名

7. 使用料の財源活用について

本市における MICE の推進及びこれら施設の維持管理、魅力向上等のための財源確保を図る。

8. 成果・課題

○ 成果

- ・致活動における姫路の魅力のアピール、ブランド
- ・MICE 都市のプランディング展開

○ 課題

- ・屋外会場の雨天対策
 - ・雨天対策への支援メニュー
 - ・世界遺産の対象区域であることによる規制の多さ
- ※課題や利用者ニーズを踏まえ、より利用しやすい制度を検討。

9. 今後の展開

2021 年 9 月開館アクリエひめじと一体となった PR

播磨の連携中枢都市にふさわしい交流の拠点施設として、文化芸術の拠点としての機能と、「ものづくり力の強化」「地域ブランドの育成」

「交流人口の増加」を促進する機能をあわせ持つ複合施設であり、本市の魅力を内外に発信し、都市の発展に寄与するとともに、中心市街地の賑わいに大きな役割を果たすことが期待している。

10. 所感

JR 姫路駅を北口に降りると大手前通りがある。今回視察目的では無かったが、この通りが素晴らしかった。その前方には世界遺産姫路城が見える。

姫路駅と姫路城を結ぶ大手前通りについて姫路市のメインストリートとして、潤いと賑わいを創出する道路空間のあり方を検討し、再整備を実施している。

事業内容

- ・ 事業期間：平成 26 年から令和元年度まで
- ・ 延長：670 メートル
- ・ 幅員：50 メートル
- ・ 起点：十二所前線
- ・ 終点：城南線

参考として大手前通り概要を記す。

大手前通りは姫路駅北口から世界文化遺産・国宝姫路城を真正面に望めるメインストリートである。50m の広幅員を有し、全線が無電柱化されるなど、姫路城の景観を損なわないように特に配慮されている点が大きな特徴である。両側歩道はクスノキとイチョウ並木が続き、読売新聞社選定の「新・日本街路樹 100 景」のひとつに選定されている。多数のブロンズ像などが設置されており、様々なイベントの場、憩いの場として親しまれている。

通りの左右には山陽百貨店やヤマトヤシキ姫路店（2018 年 2 月 28 日閉業）などの百貨店、それに銀行等が立ち並ぶ。姫路駅北駅前広場から約 170m 北上した「白銀交差点」で西行き一方通行の姫路市道十二所前線と直交し、更に 400m 北上した「大手前交差点」で東行き一方通行の国道 2 号と直交する。東側に平行してアーケード商店街「みゆき通り商店街（御幸通）」「おみぞ筋商店街（小溝筋）」が通る。またヤマトヤシキの

北西角で、東西に走る「二階町商店街」と交差する（大手前通り以西は「西二階町商店街」）。

姫路中心市街地と近郊各地域を結ぶ神姫バスのうち、姫路駅北口に到着するほぼ全てのバス路線が通過する重要な道路でもある。

世界遺産の姫路城を中心とした JR 駅前の再整備事業、まちづくりが大変素晴らしかった。思わぬ感動を抱いた。那須塩原市の駅前を今後どうするかはまだこれからであるが、JR 那須塩原駅には那須連山がある。姫路市の人口からして比べ物にはならないが、単に庁舎や商業ビルを建てるのではなく、その眺望を生かした駅前の活性化を図っていくことが重要であると強く感じた。

ユニークアベニューHIMEJI や MICE の取り組みによって、豊富な観光資源や交通の利便性、姫路城を生かした文化事業などを進めている。

ただ、利用実績がほとんどなく、もっと使ってもらうことが課題である。そのためには料金の見直しなども考えているとのことである。また、EXILE などコンサート会場に利用するなどして、集客やブランドイメージをさらに高めるなどの取り組みも考えていると言っていた。

大変参考になった。



テーマ 下水汚泥からリン酸肥料、バイオガス生産
視察地 兵庫県 神戸市
視察日 令和5年1月31日
報告者 小島 耕一



神戸市の概要

兵庫県の南部に位置する県庁所在地の政令指定都市で日本を代表する港湾都市である。人口は152万7千人、面積557平方kmで京阪神大都市圏における中心都市である。1995年の阪神淡路大震災で被害を受け、復興を進めた。



下水汚泥からのリン酸肥料生産 取り組みの経緯

1995年に東灘下水処理場は阪神淡路大震災によって壊滅的被害を受けた。パイプや沈殿槽の破損によって全く利用できなくなり、処理場と管理棟の間にある運河を浄化施設として利用した。下水処理場の再建に当たり、下水汚泥の有効利用など未来に向けた最先端の下水処理場を目標に国の支援をうけて再建に取り組んだ。



リン酸肥料生産の仕組み

下水汚泥に溶解している高濃度のリンを結晶化、抽出・回収する設備をもちいて再生リンを生産している。

こうべSDGs肥料「こうべ再生リン」と名付けて有機質などと配合して環境に優しい「こうべハーベスト」として、市内農家へ販売している。



リン酸肥料を活用した地域活性化

酒米や食用米の生産に「こうべ再生リン」を活用し付加価値を高めると共に、神戸っ子SDGsプログラムと名付けた食育環境教育プログラムを実施し、出前授業やスイートコーンの収穫体験を行い小学生に循環型社会を理解させている。このような活動が評価され、循環のみち下水道賞「イノベーション部門」を受賞した。



神戸バイオガスの取組み

下水の水再生を終了後、残った下水汚泥を大きな消化タンクに封入し、メタン発酵を行って消化ガスを生産している。消化ガスはメタンが60%、二酸化炭素40%であることから、バイオガスの精製設備で二酸化炭素を取り除いて、メタン97%を生産して、バイオガスステーション、都市ガスなどに販売すると共に、加温用ボイラーを使用してエネルギーの自給をおこなっている。

なお、都市ガスへの販売はコスト的に効率が悪いうようで、バイオガス発電を予定しているとのこと。



開発技術の海外支援への取組み

海外での水環境問題を解決するサポートを目指し、提携する民間企業と連携して支援を行うとしており、諸外国からの研修や視察の受け入れを行っている。



所見

神戸市は28年前の阪神淡路大震災の大きな被害を受けたが、国からの支援もあり、着実な復興をとげている。神戸市の下水道の水処理システムは、世界の水循環に貢献しようと、最新技術を開発し、実証している。これも官民が連携して新たな技術を開発すると共に、それを実証した努力があったからである。

下水汚泥には、多くのリン酸を含み、日本にはリン酸資源がないことから、貴重な宝の山となる。神戸市では「下水から資源のかたまり大収穫」というキャッチフレーズで資源循環に取組み、その成果をPRしている。

開発途上国の発展やロシアのウクライナ侵攻によって、世界における資源の争奪は厳しさを増しており、食料やエネルギーの価格高騰が起こっている。肥料についても暴騰していることから、国内資源の循環に取組む必要がある。

本市においても、下水の水処理センターを有しており、国においても下水汚泥の肥料化を推進していることから、資源循環による肥料化を行い、農業の振興に取り組む必要がある。

・阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備について

視察地 兵庫県尼崎市

視察日 令和5年1月31日（火）

報告者 眞壁俊郎



○脱炭素先行地域の対象

小田南公園内タイガース野球場等・大物公園・大物川緑地・阪神電車尼崎駅等

○主なエネルギー需要家

公園緑地 3 か所・小田南公園内の野球場
2 施設・選手寮兼クラブハウス・室内練習場・鉄道 6 駅

○共同提案者

阪神電気鉄道株式会社

・取組の概要

人口減少が進む大物地域の南公園に阪神タイガースファーム施設が移転することに合わせ、同公園内の野球場、練習場等のスポーツ施設に太陽光・蓄電池を導入するとともに、自営線による同施設間や近隣の大物公園、大物川緑地間の電力融通を行った上、不足する電力をごみ発電の余剰電力を活用しゼロカーボンベースボールパークを実現する。あわせて、近隣の阪神電車の駅（6 駅）を太陽光等により脱炭素化するとともに、EV バス導入、ゼロカーボンナイターの開催等行い相乗効果を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

① 各施設において省エネを徹底し、選手兼クラブハウスについては、ZEBReady（全国初）を目指す。

② タイガース球場及び室内練習場には太陽光発電（710kW）と蓄電池を導入し、自家消費するとともに、小田南公園内各施設等の自営線区域内に融通。

③ 自営線区域内で不足する電力についてはクリーンセンターの廃棄物発電の余剰電力を活用。

④ 近隣各鉄道駅舎 6 駅については、太陽光発電設備（計 621kW）を導入し、自家消費を行いつつ、各駅間で融通し、不足分は再エネ電力で調達。

2. 民間部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

① ゼロカーボンベースボールパークとして公園内や試合の中で脱炭素の取組を周知、ゼロカーボンナイター（RE100、バイオマス素材の活用、プラスチックリサイクルの強化）の開催等に取り組む。

② 鉄道網が発達している東西の移動に比べて交通手段が限定される南北の主要交通手段である路線バスへの EV（26 台）導入。

3. 取組により期待される主な効果

① 阪神タイガースファームの試合だけでなく、試合以外のイベント等に多くの集客が見込まれており、これらの来場者に対して、阪神グループと協力して駅の脱炭素化、EV バス・シェアサイクルの導入など来場時の交通の脱炭素化を進めることや、先行地域内で行われる脱炭素の取組（ゼロカーボンナイターの開催、廃棄物発生抑制及びリサイクルの推進など）を PR すること等により、小田南公園を含むエリア全体での交流人口の増加に

による経済効果と脱炭素普及啓発を同時達成。

4. 主なスケジュール

2022 年 公園緑地設計、大物駅太陽光工事

2023 年 公園緑地再整備、抗瀬駅太陽光工事

2024 年 公園緑地再整備、尼崎センタープール前駅太陽光工事、EV バスの導入及び運行

2025 年 ゼロカーボンベースボールの開催、脱炭素関係のソフト事業の推進、武庫川駅太陽光工事、尼崎センタープール前駅 LED 工事、EV バスの導入及び運行、シェアサイクルの導入

2026 年 ゼロカーボンベースボールの開催、脱炭素関係のソフト事業の推進、大物・抗瀬・出屋敷駅 LED 工事、シェアサイクルの導入

那須塩原市においても昨年 11 月に、ミルクタウン那須塩原のチャレンジゼロカーボン～青木地区ゼロカーボン街区構築事業～が、環境省の脱炭素先行区域に選定され 2023 年度から実施されます。太陽光発電・蓄電池の設置や那須疎水を利用した小水力発電、家畜ふん尿を活用したバイオガス発電といった未利用資源を有効活用した多様な再エネ電源を導入し、脱炭素化を実現するものです。また、再エネ電力 100% の地域マイクログリッドを構築することで、非常時における酪農業の事業継続性の向上も図るものです。今後、2050 年カーボンニュートラルが実現出来ることを期待して報告とします。

・こども本の森中之島について

視察地 大阪府大阪市

視察日 令和5年2月1日（水）

報告者 金子 哲也



大阪市の中之島にある、幼児からこどもを対称にした「こども本の森 中之島」を訪ねた。

ここは中之島公園内にある簡素に、また小綺麗にまとまった素敵な建物であった。（安藤忠雄建築研究所が設計し、竹中工務店施行で建物と外構は安藤氏の個人の寄付とのことであった。）中之島一帯は100年以上前に開館した重要文化財の大阪中央公会堂や東洋陶磁美術館などが立ち並び、古くから大阪文化の中心地と位置付けられてきた場所で、すぐ脇にはバラの庭園が広がる環境で、ここに絵本や物語の文化が代々引き継がれていく「物語の聖地」として誕生したそうです。「この国のこれからを支えていく子どもたちに、豊かな感性を育んでほしい。手軽で瞬時に情報を入手できるインターネットとは違い、読書は心の栄養になる。」

という安藤さんの思いが込められているそうです。

案内によると、建物内に入ると、3フロア分の壁がすべて本棚になっています。まさに“本の森”。生命力たっぷりにのびのびと生い茂る森の木々のように、どこにいても壁一面の本が、ここへ来る子どもたちに視線を投げかけます。

大きな木の根っこのような大階段や、階段裏の少し奥まったスペース、静まりかえった円筒吹き抜けの空間、窓際のソファ、建物内には様々なスペースがあります。みんなで物語を聞く読み聞かせ、大人数でのギャザリング読書、一人で没頭するなど、その時々によって場所を見つけ出す楽しみがあります。また、建物外（中之島公園内）に本を持ち出してもよいのです。

公園内の水辺、木陰のベンチ、芝生の上に寝転んでなど、子どもたちは一体どんな場所を見つけ出して、この日に出会った本の世界へ旅立つのでしょうか。とてもわくわくする光景です。又、1階には、天井の丸い穴から差し込む、何もない円筒状のスペースがあります。ぼんやりと薄暗くて、ずっと心が落ち着くような場所です。何もないからこそ、想像はふくらみ、いろいろなアイデアが浮かんでくるかもしれません。また、ここでは時々映像作品が流れます。本の物語に出てくる言葉やシーンを、動く紙芝居のように映します。物語への興味や、物語に入り込んでいく楽しさを子どもたちに伝えたいと言っています。



○スタッフによる「もりびと」による本の読み聞かせを実施したり、大阪クラシックにおいてアンサンブル演奏を実施したり、地区のコミュニケーション・書店・メディア等とタイアップした行事の開催をしています。

○室内では、声を出したり、階段をかけ登ったり自由に遊んでも良いことになっていて、図書館というよりも、本を中心とした遊び場・居場所として、子どもの一番敏感な時期の大切な基本的な人間教育を目指しているように思われました。子どものための、子ども中心の、子どもの本の森のすばらしい実践をしていました。